

2023年度（2024年3月期） 第2四半期決算説明資料

2023年11月9日

H.U.グループホールディングス株式会社

（証券コード：4544）

- ※ 本資料では、記載している部分およびEBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却費)の数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。
- ※ 「親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益」を「当期（四半期）純利益」と省略する場合があります。
- ※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。
- ※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。

検査・関連サービス事業 : LTS (Lab Testing and its related Services)

臨床検査薬事業 : IVD (In-Vitro Diagnostics)

ヘルスケア関連サービス事業 : HS (Healthcare-related Services)

- ※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2022年度上期	: 1USD = 133.97 JPY	1EURO = 138.70 JPY
2023年度上期	: 1USD = 141.00 JPY	1EURO = 153.39 JPY
2023年度下期想定	: 1USD = 141.00 JPY	1EURO = 153.39 JPY

- ※ 2022年度において行われたADx NeuroSciences N.V.およびFluxus, Inc.の企業結合に係る暫定的な会計処理が2022年度末に確定しており、2022年度における各数値については、取得原価の当初配分額を見直し、遡及処理しております。

2023年度第2四半期業績概況

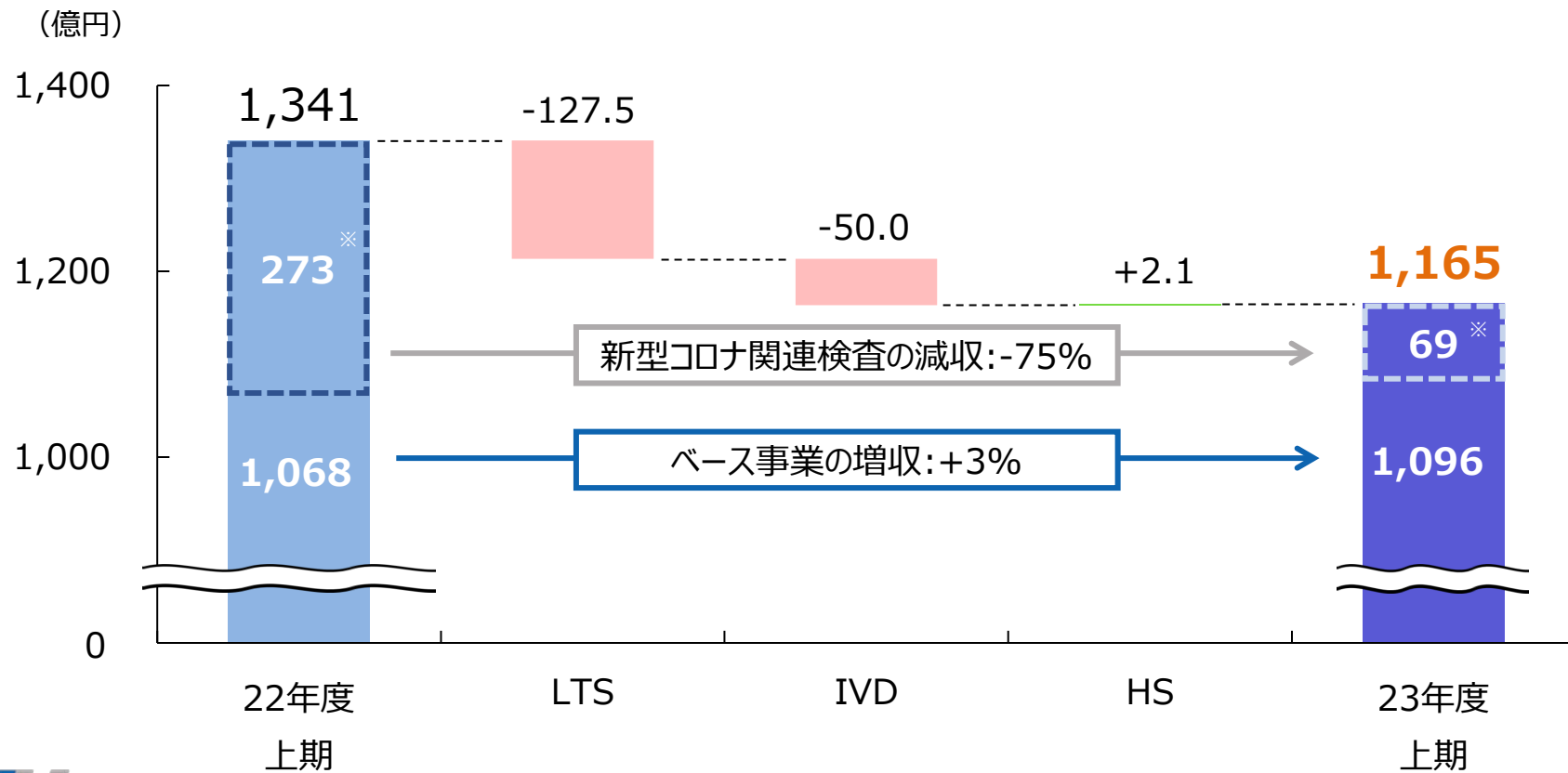
連結業績（対前年同期比）

(億円)

	22年度 上期		23年度 上期		対前年同期比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減	
売上高	1,341		1,165		-175.4	-13.1%
LTS	850		723		-127.5	-15.0%
IVD	352		302		-50.0	-14.2%
HS	138		140		+2.1	+1.5%
営業利益/損失[※]	177	13.2%	-16	-1.3%	-192.7	-
LTS	29	3.4%	-62	-8.6%	-91.2	-
IVD	157	44.6%	68	22.5%	-89.0	-56.6%
HS	6	4.4%	6	4.0%	-0.4	-6.6%
経常利益/損失	178	13.3%	-16	-1.3%	-193.8	-
四半期純利益/純損失	156	11.6%	-18	-1.6%	-174.0	-
EBITDA	268	20.0%	87	7.5%	-181.5	-67.6%

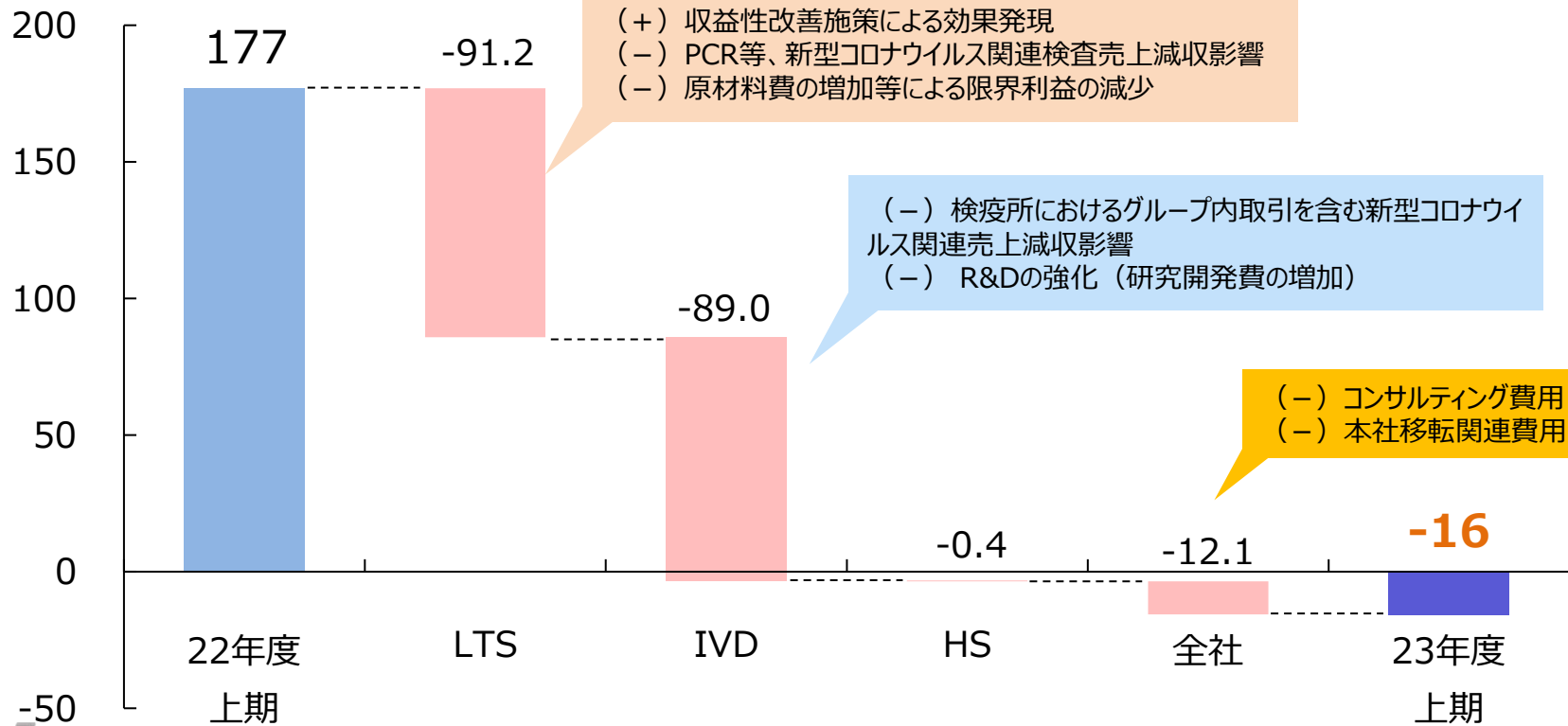
※ 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（22年度上期：▲15.5億円、23年度上期：▲27.6億円）

連結売上高（対前年同期比）



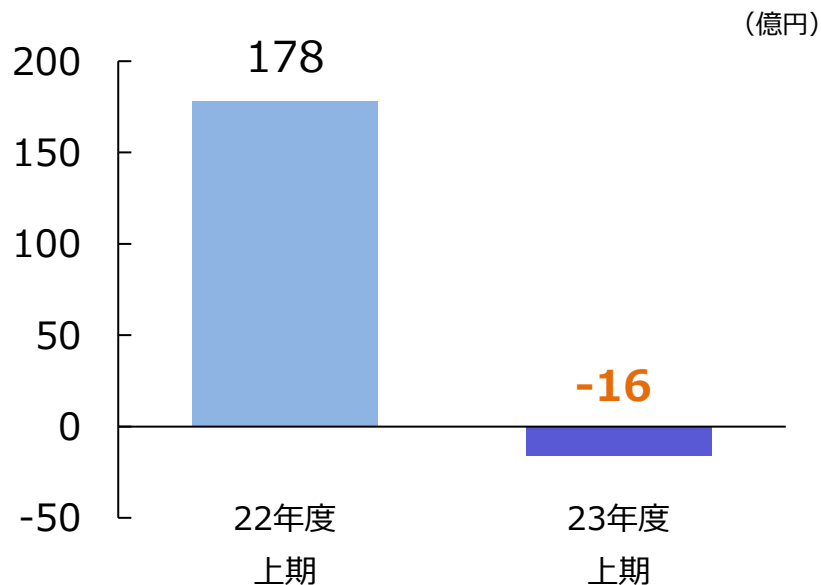
連結営業利益（対前年同期比）

(億円)



連結経常利益/損失および四半期純利益/純損失

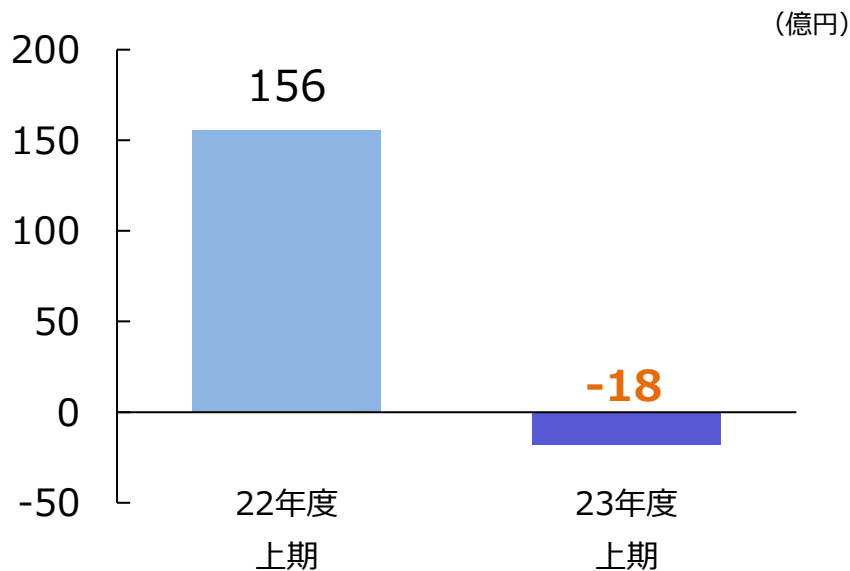
経常利益/損失



主な営業外損益

- 為替差益 11.0億円
- 持分法による投資損失 7.4億円

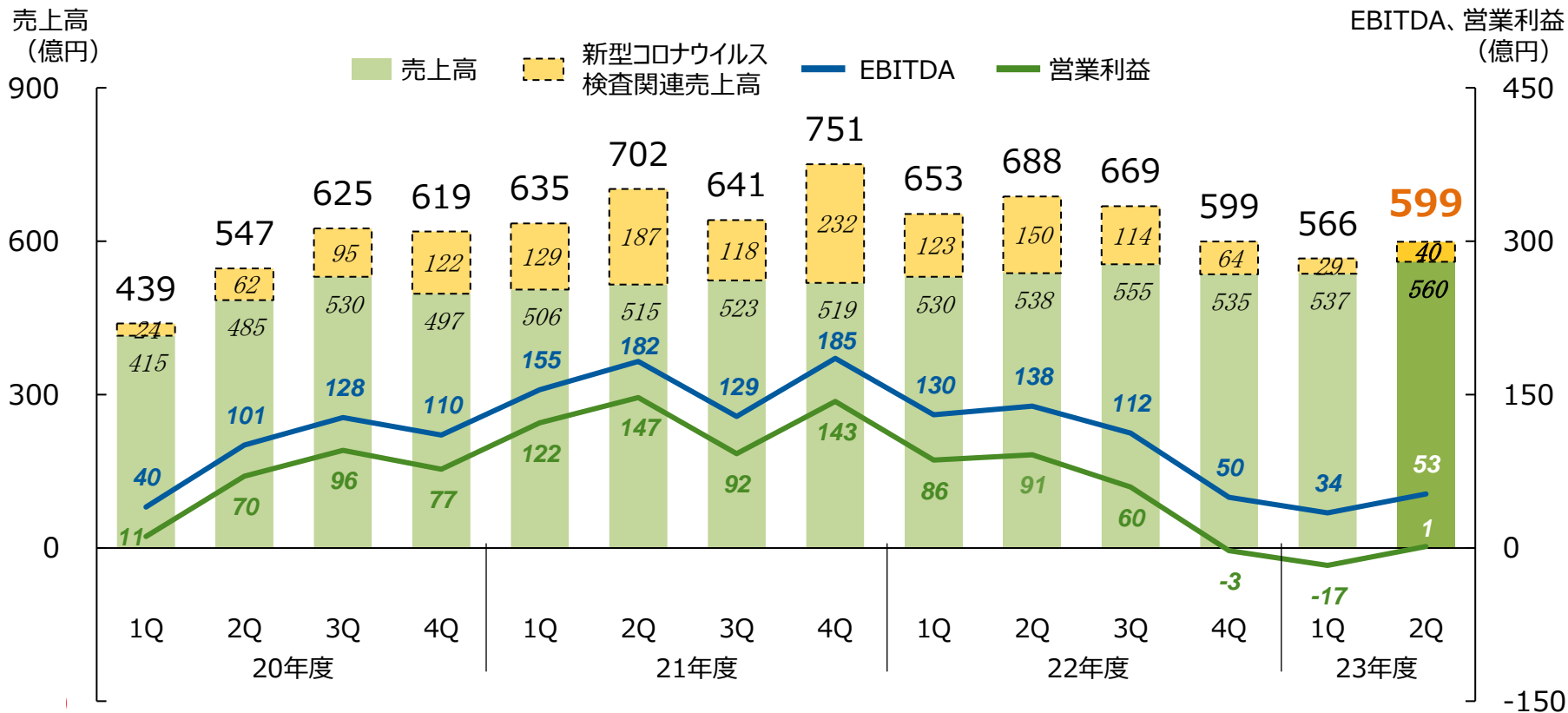
四半期純利益/純損失



主な特別損益

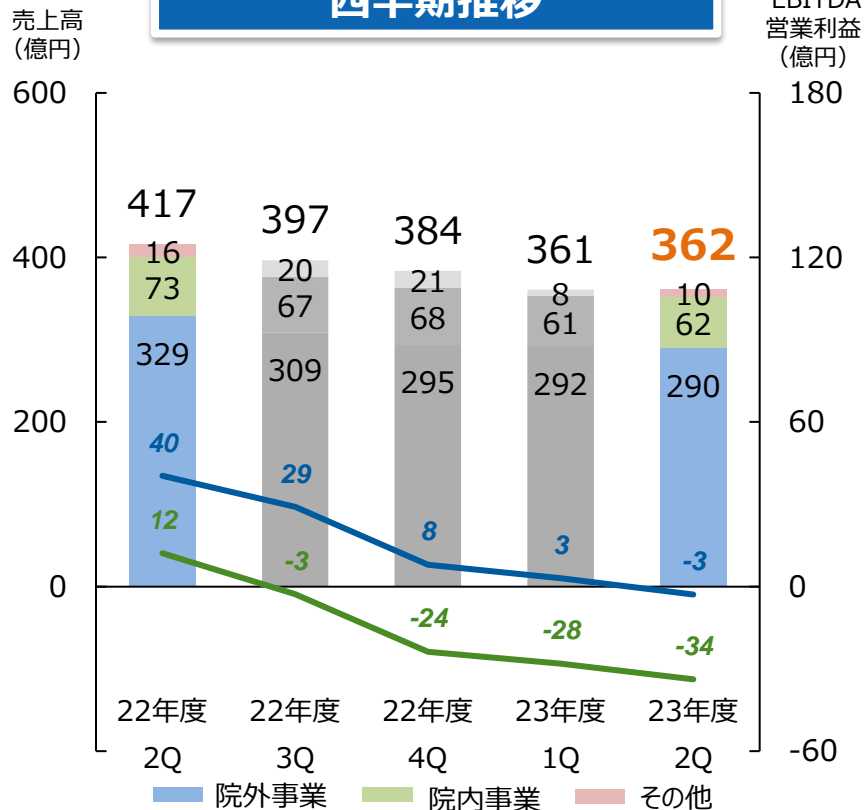
- 事業譲渡益 3.8億円
(IVD事業における事業譲渡：RIA※)

四半期毎の業績推移



LTS事業

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	22年度 上期	23年度 上期	対前年同期比 増減	
売上高	850	723	-127.5	-15.0%
院外事業	649	582	-66.4	-10.2%
院内事業	173	123	-50.2	-28.9%
その他	28	17	-10.8	-38.3%
EBITDA	86	0	-85.4	-99.9%
営業利益	29	-62	-91.2	-

売上高

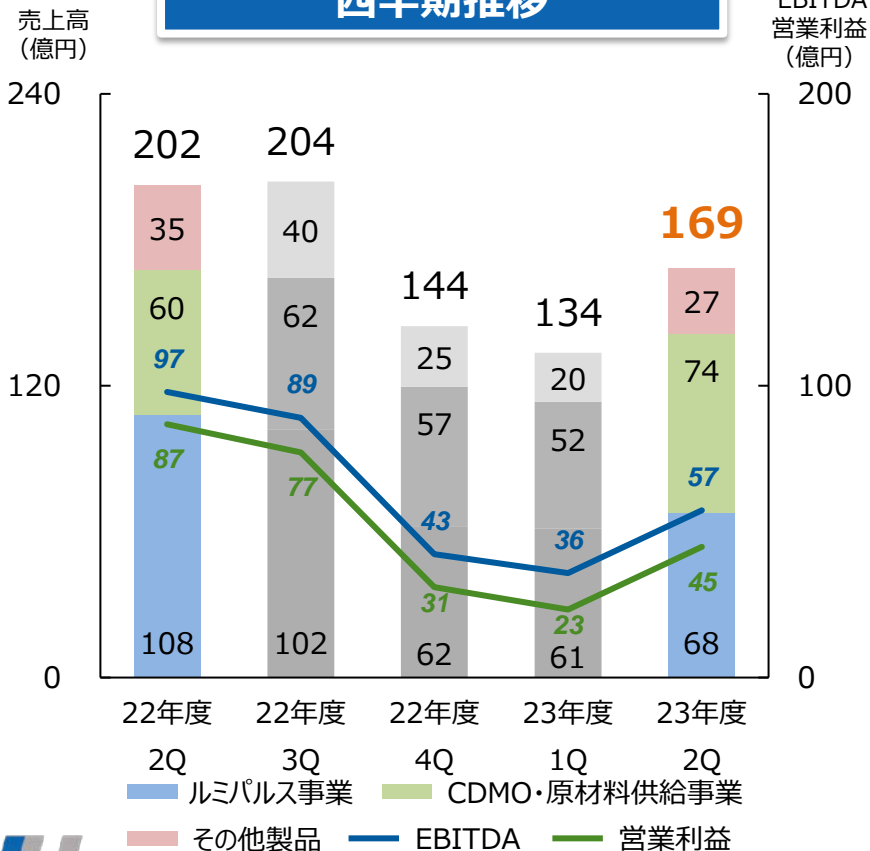
- 新型コロナウイルス関連：約24億円（前年同期：約161億円）
✓ 主にPCR検査、空港検疫所における抗原定量検査の減少
- 遺伝子関連検査の増加

営業利益

- 収益性改善施策による効果発現
- 新型コロナウイルス関連検査の減少による減益
- 原材料費の増加等による限界利益の減少

IVD事業

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	22年度 上期	23年度 上期	対前年同期比 増減	
売上高	352	302	-50.0	-14.2%
ルミパルス	179	129	-50.2	-28.1%
国内	160	113	-46.9	-29.3%
海外	19	16	-3.3	-17.5%
CDMO・原材料	113	126	+12.9	+11.4%
その他	60	47	-12.7	-21.1%
EBITDA	177	93	-83.5	-47.3%
営業利益	157	68	-89.0	-56.6%

ルミパルス 内販売上高	22年度 上期	23年度 上期	対前年同期比 増減	
	41	23	-18.2	-44.7%

売上高

- 新型コロナウイルス関連：約45億円（前年同期：約112億円）
 ✓ 国内・海外ルミパルス、エスプラインの減収
- 円安の影響もありベース事業は伸長

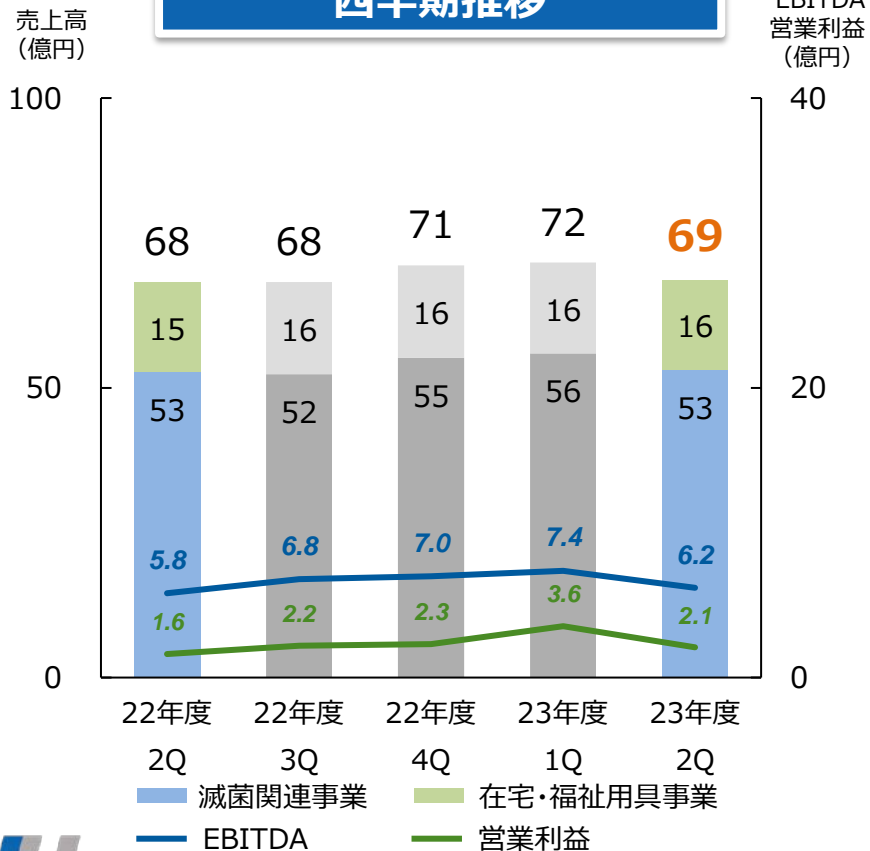
営業利益

- 新型コロナウイルス関連売上高の減少にともない利益が減少
- R&Dの強化（研究開発費の増加）

為替影響（売上高：+9.4億円、営業利益：+1.4億円）

HS事業

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	22年度 上期	23年度 上期	対前年同期比 増減	
売上高	138	140	+2.1	+1.5%
滅菌関連	107	109	+1.7	+1.6%
在宅・福祉用具	31	31	+0.4	+1.3%
EBITDA	13.8	13.6	-0.3	-1.9%
営業利益	6.0	5.6	-0.4	-6.6%

売上高

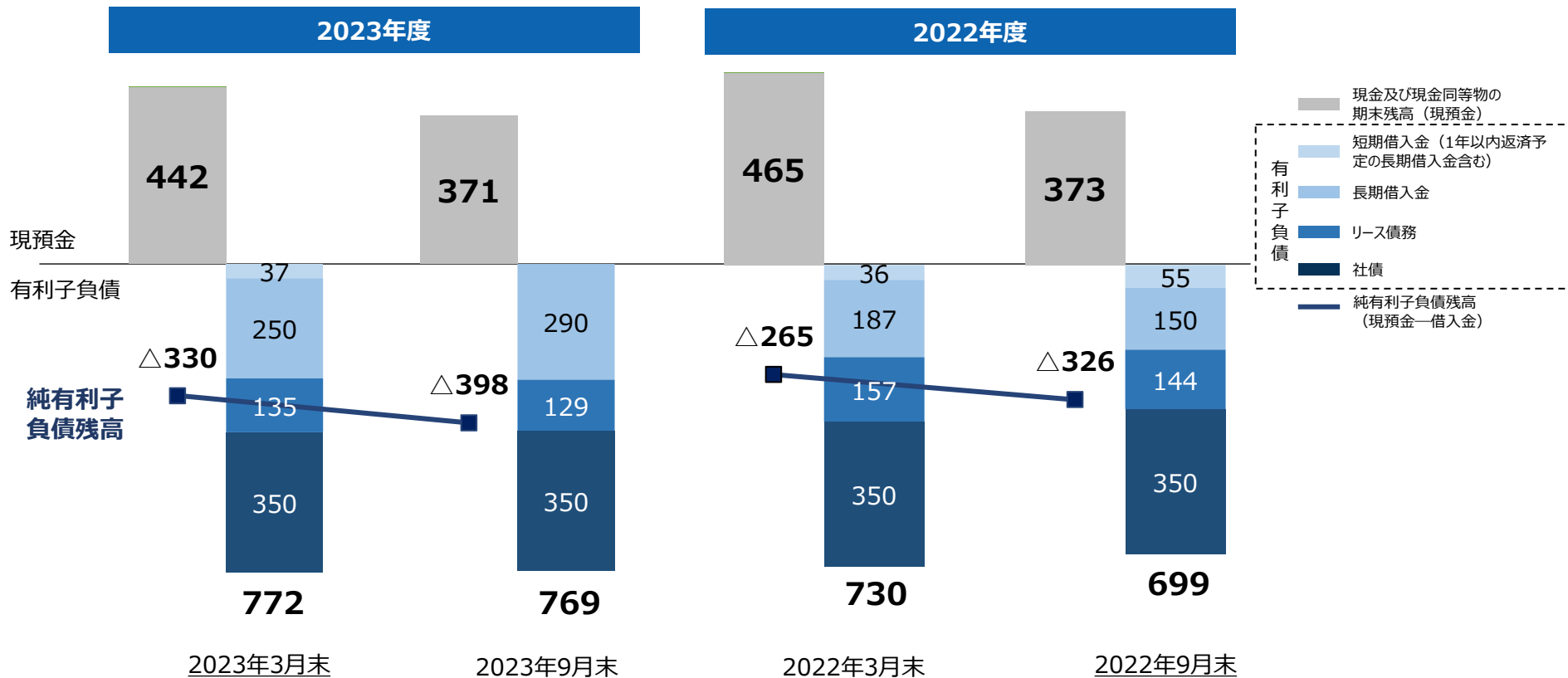
- 滅菌関連事業、在宅・福祉用具事業ともに伸長

営業利益

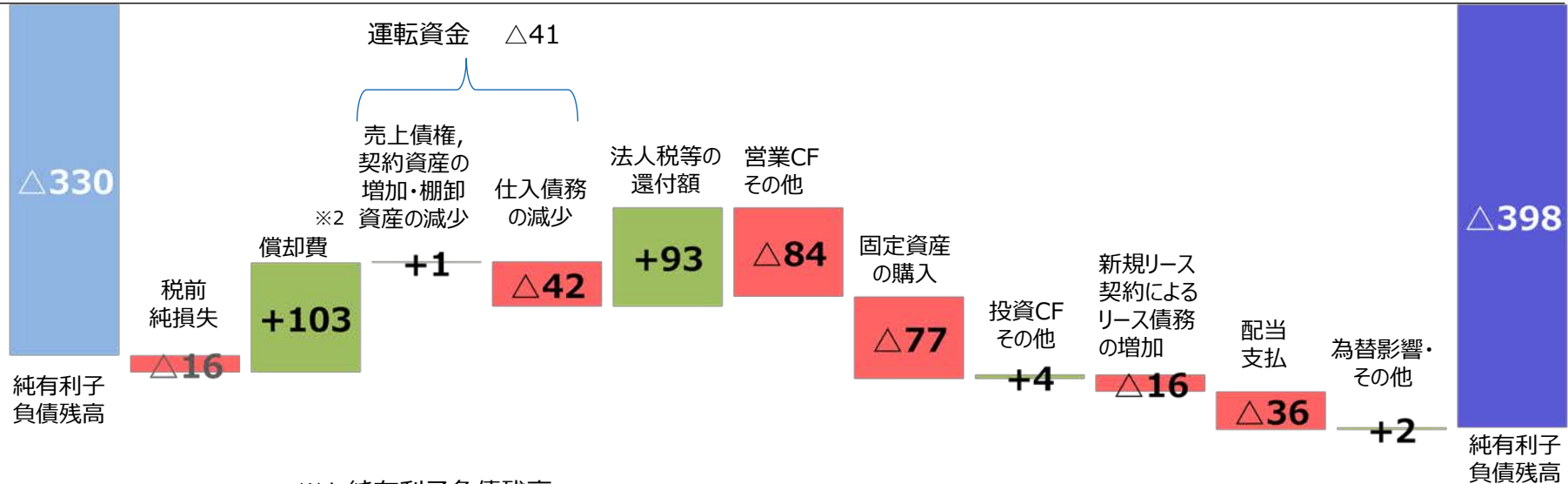
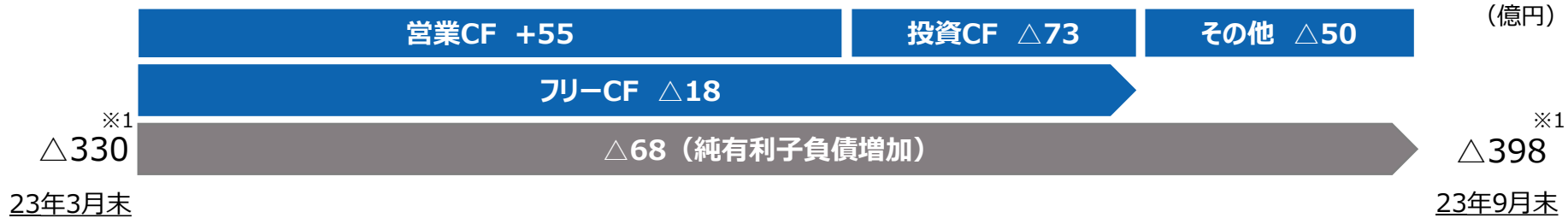
- 人件費等の増加

現預金・有利子負債残高

(億円)

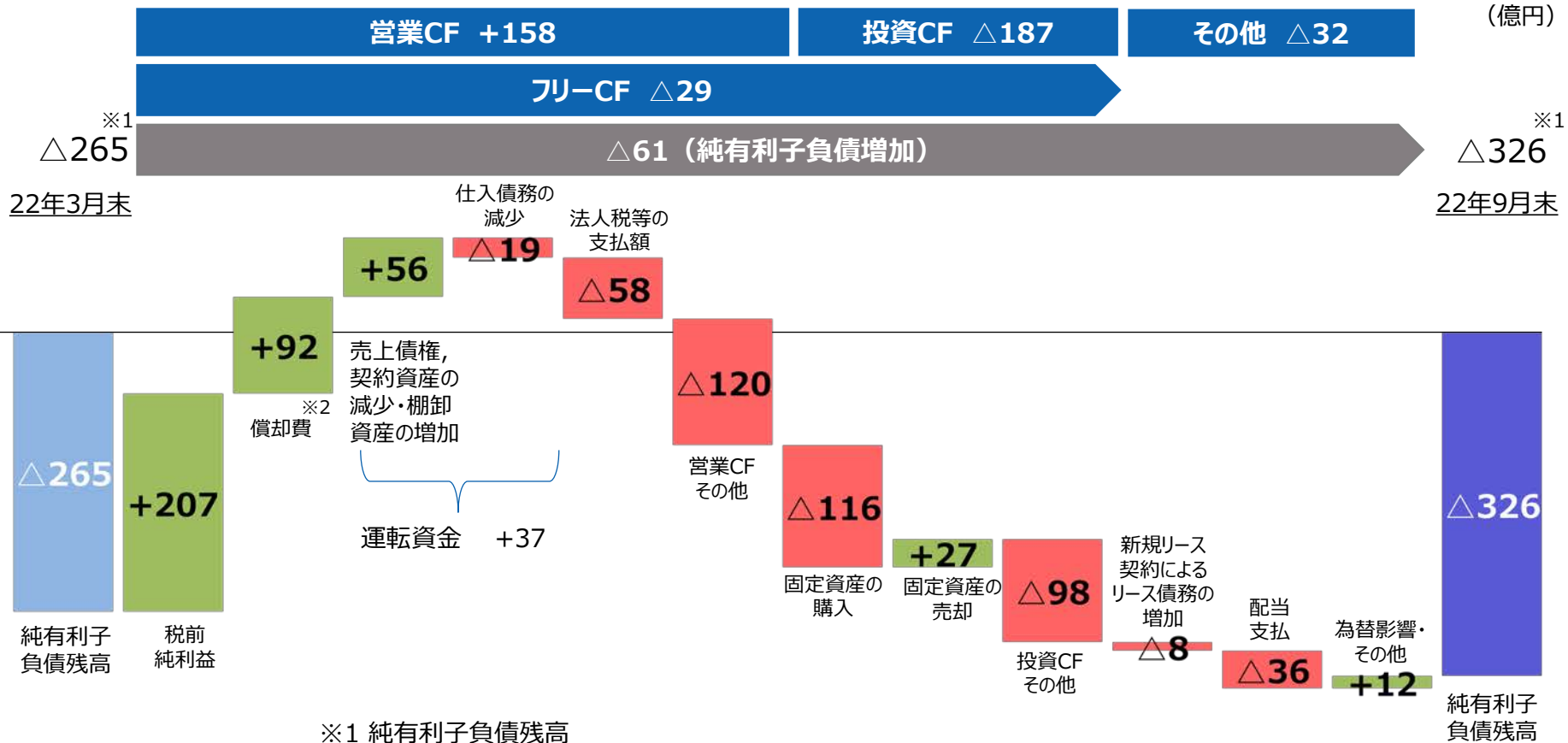


2023年度上期連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



※1 純有利子負債残高
 ※2 減価償却費+のれん償却額

2022年度上期連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



※1 純有利子負債残高
 ※2 減価償却費+のれん償却額

戦略の進捗および、2023年度通期業績の見通し

通期連結業績の見通し（PL）

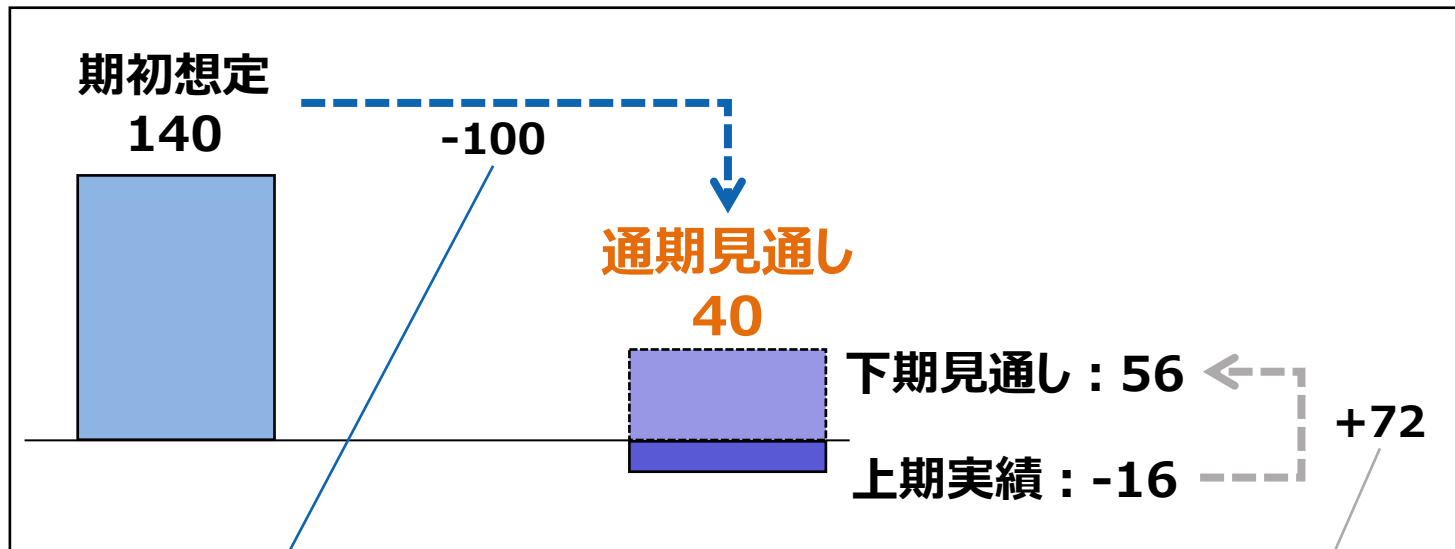
（億円）

	2022年度 実績	2023年度					
		期初想定 (5月12日公表)	通期見通し (11月9日公表)	対前年同期比		対期初計画比	
売上高	2,609	2,450	2,400	-209	-8.0%	-50	-2.0%
EBITDA	431	360	250	-181	-42.0%	-110	-30.6%
営業利益	234	140	40	-194	-82.9%	-100	-71.4%
経常利益	220	120	25	-195	-88.6%	-95	-79.2%
当期純利益	157	60	0	-157	-100.0%	-60	-100.0%

- 株主還元：一株当たり配当金は変更なし（中間62円、期末63円）

営業利益見通しの考え方（期初想定比、上期実績対比）

(億円)



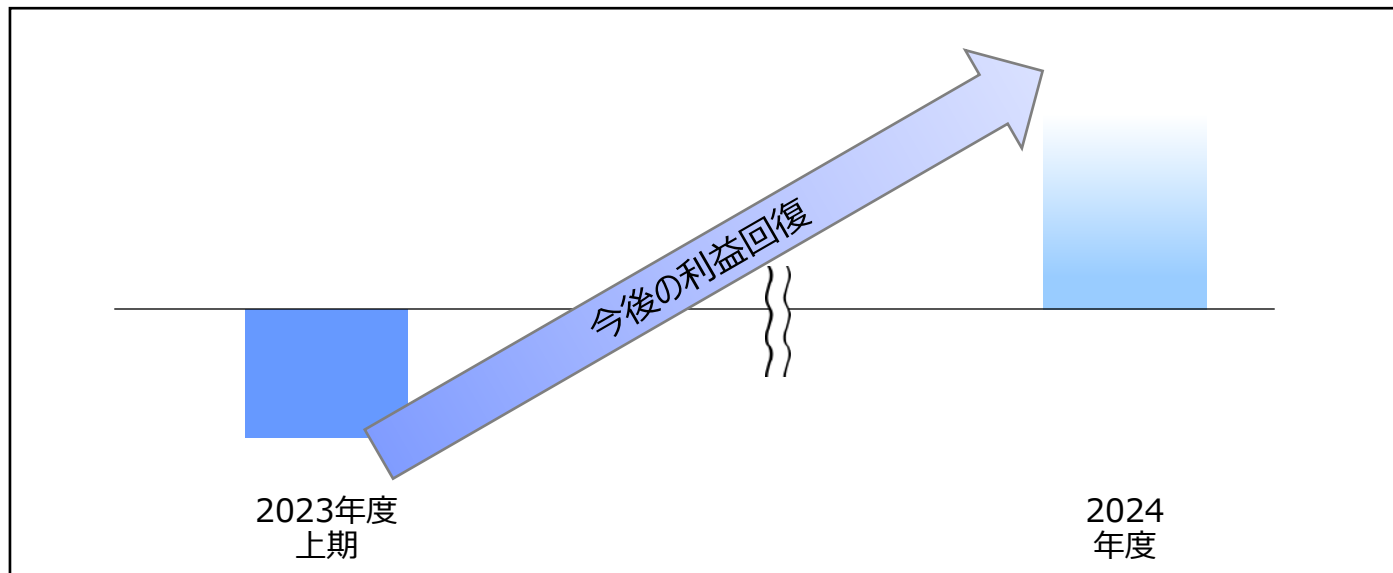
期初想定比での主な変更点

- 新型コロナ関連検査売上の減少にともなう利益減
- ベース事業の検査数回復停滞
- あきる野セントラルラボラトリーの一般検査における検体受付業務の遅延や検査工程上の一時的な不具合への対応影響

上期実績対比での主な利益改善ポイント

- 下期以降のベース事業の検査数回復を織り込む
- 八王子ラボの閉鎖、収益改善施策は期初想定通り発現（従来より下期偏重）
- CDMO：出荷ボリュームの増量

LTS営業利益の今後の見通し



利益回復要因

- ベース事業の検査数回復および新規獲得・項目拡販による増収
- 収益改善施策効果発現
- H.U. Bioness Complex関連：一時費用の減少、効果発現

あきる野セントラルラボの報告遅延原因と対策について

報告遅延発生の原因

- マニュアル検体（自動化対象外の検体）の増加に加えて、手順・ルールの習熟不足等によって、各工程に要する時間が長くなり全体が後ろ倒し
- 結果として検体処理量が低下し、一部検査の報告遅延が発生

受付

- ✓ マニュアル検体の処理数増加
- ✓ 処理手順の習熟不十分

検査

- ✓ 受付遅延による検査時間不足
- ✓ マニュアル検体に対するルール徹底不足（再検等）

一部検査の
報告遅延

対策

- 検査体制の再整備（マニュアル検体の処理方法の整備、トレーニング）
- 時限的処置として一部のマニュアル検体を旧受付へ切り替え

H.U. Bioness Complex関連費用・発現効果の状況

- 報告遅延への対応等により、フル稼働が遅れ、期初年間想定に対して、一時費用増加・効果発現の遅れを見込む
- 減価償却費・ランニングコストは、期初年間想定を下回るため、23年度は影響が概ねオフセットされる見込み

	期初年間想定	23年度上期 実績	23年度下期 見通し	現時点での見込み	
コスト	一時費用	10億円	8億円	10億円	フル稼働へ向けた移行費用が 下期継続発生し増加見込み
	減価償却費	61億円	24億円	27億円	期初想定を下回る見込み
	ランニングコスト※	59億円	25億円	27億円	エネルギーコストが想定を下回る
	コスト合計	<u>130億円</u>	<u>58億円</u>	<u>64億円</u>	
効果	効率化効果	+23億円	+5億円	+7億円	効果発現の遅れ



- 免疫検査領域における研究・開発、生産、臨床開発、販売など多面的に協業を強化すべく、業務提携基本契約を締結
 - 2020年度以降、HISCL™※専用試薬の開発受託を開始済み。開発終了次第、順次、項目の上市を見込む
 - 更なる協業の内容については、今年度中を目途に具体化
- ▼
- 当社IVD事業が進めている「パートナーシップ戦略（CDMO含む）」の一例
 - 今後も、当社の「強み」を生かせるパートナーシップを積極的に締結していく

【連絡先】

H.U.グループホールディングス株式会社

IR/SR部 ir@hugp.com

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。